

【別添】表9：Factors influencing acceptance of technology for aging in place: A systematic reviewから抽出された質的研究の一覧（全16件）

タイトル	年代	著者	ADL	安全性	相互作用	実装プレ	実装ポス	調査方法	対象	調査テーマ	n	国名	
1	Privacy, Technology, and Aging: A Proposed Framework	2011	Lesa Lorenzen-Huber, Mary Boutain, L. Jean Camp, Kalpana Shankar & Kay H. Connelly Ageing International	×	×	×	×		定性的	フォーカスグループ 6~8人の高齢者の小グループを対象に、いくつかのパイロットテストを施行。	高齢者のためのホームベース・ユビキタス技術開発における最初のプライバシーフレームワークの妥当性と関連性を探るために企画。プライバシーの枠組みは、ホームベースのユビキタス・コンピューティング技術の開発において有効か？ プライバシーフレームワークは、高齢者のプライバシーに関する懸念を正確かつ適切に表現しているか？	65	米国
2	Ageing-in-place with the use of ambient intelligence technology: Perspectives of older users	2011	J.van HoofaH.S.M.KortaP. G.S.RuttenbM.S.H.D uijnsteeta		×	×	×	×	定性情報	デプスインタビュー	複雑な介護要求を持つ地域在住高齢者18名を対象に、家庭環境におけるテクノロジーと環境介入に関するインタビューと観察からなる質的研究の結果を示すものである。これらの回答者は、アンビエントインテリジェンス技術の一例である無人自律監視システムのプロトタイプを、エイジ・イン・プレースの手段として自宅に設置した。UAS-systemは、移動監視、音声応答、火災検知、さらに徘徊検知・防止など、幅広い機能を備えており、さまざまな構成で設置することが可能です。	18	オランダ
3	A survey of older Hong Kong people's perceptions of telecommunication technologies and telecare devices	2010	Claudia KY Lai hsclai@inet.polyu.edu.hk, Jenny CC Chung, [...], Natalie KL Leung, Jimmy CT Wong, and Diana PS Mak, +2 -2View all authors and affiliations		×		×		ミックス メソッド	対面式調査	香港の高齢者が、自宅での安全性を高めることができる製品への通信技術の応用をどのように受け止めているかを調査した。本研究における遠隔介護機器は以下の通りである。(1) 24時間対応のパーソナルエマージェンシーリンクサービス (PELS)、(2) 家庭用非侵入型動作監視システム、(3) ウェアラブルバイタルサイン監視システム。データは、香港の15の地区高齢者コミュニティセンターに住む65歳以上の高齢者368人の利便性サンプルから、訓練を受けたインタビュアーによる対面インタビューで実施された構造化質問票によって収集されました。PELSは96%、在宅非侵入型モニタリングシステムは91%、ウェアラブルバイタルサインモニタリングシステムは84%と、3つの遠隔介護機器はいずれも高齢者参加者に有用であると認識されていた	333	中国
4	The role of technology for healthy aging among Korean and Hispanic women in the United States: A pilot study.	2010	Steggell, Carmen D. Hooker, Karen Bowman, Sally Choun, Soyoung Kim, Sun Joong	×	×	×	×		定性的	フォーカスグループ	本研究の目的は、米国韓国系およびヒスパニック系マイノリティ高齢女性の、高齢期におけるコミュニケーションおよびモニタリング技術の適用に関する関心と懸念を調査しこれらの集団に特有の問題のいくつかを洞察することであった。移民の韓国系女性 (n=19) とヒスパニック系女性 (n=13) の態度と価値観を探るために、参加者の母国語によるフォーカスグループを使用した。フォーカス・グループの討議は、質的データの内容分析により、参加者が積極的にジェロン・テクノロジーを試そうとする姿勢、母国にいる家族とのつながりを改善する可能性への評価、テクノロジーがもたらす安全性と自立性の向上への認識など、肯定的なテーマが浮かび上がった。一方、「金銭的な不安」「言葉の壁」「電子機器による身体的な影響」など、否定的な意見もあった。本研究に参加したマイノリティ女性のジェロンテクノロジーに対する認識は、韓国とヒスパニックの文化的経験や価値観を反映したものであった。ジェロン・テクノロジーの研究が進むにつれ、新しいツールの設計、選択、使用において、マイノリティグループの文化的ダイナミクスを考慮することが重要になるとと思われる。	32	米国
5	Elderly persons' perception and acceptance of using wireless sensor networks to assist healthcare	2009	RobertSteeleaAmandaLoaChrisSecombe Yuk KuenWongc		×		×		定性的	フォーカスグループ	無線センサーネットワーク (WSN) 技術に対する高齢者の認識、態度、懸念について定性的調査を実施した探索的研究である。自立した生活を送る高齢者を対象に実施された。現在の無線センサーネットワーク (WSN) 技術や設計に対する高齢者の認識や考えを探るため、様々なユーザー受容の理論やモデルから特定された概念からディスカッションポイントを設計した。	13	オーストラリア
6	the perspectives of older adults in continuing care retirement communities, Inform. Prim. Care 16 (2008) 195-201.	2008	Karen L Courtney 1, George Demiris, Marilyn Rantz, Marjorie Skubic		×		×		定性的	フォーカスグループ デプスインタビュー	自立型・介護型CCRCに居住する高齢者のスマートホーム技術導入の意思に影響を与える要因について調査した。本調査の結果、プライバシーが高齢者のスマートホーム技術導入の障壁となる可能性はあるものの、高齢者自身が技術の必要性を認識することで、プライバシーの懸念を払拭できる。	14	米国
7	Senior residents' perceived need of and preferences for "smart home" sensor technologies	2008	George Demiris Brian K. Hensel Marjorie Skubic Marilyn Rantz		×		×		定性的	フォーカスグループ	特定のスマートホームテクノロジー (ベッドセンサー、歩行モニター、ストーブセンサー、モーションセンサー、ビデオセンサーなど) に対する高齢者の認識を評価することである。	14	米国
8	Falls in older people: The place of telemonitoring in rehabilitation	2008	Khim Horton, PhD, BSc (Hons), RN, RCNT, RNT, PGCEA		×	×	×	×	定性的	デプスインタビュー	転倒検知器とベッド占有センサーを用いた拡張アラームサービスが、転倒を繰り返す地域在住高齢者の転倒恐怖を軽減できるかどうかを検討した観察研究の定性的要素の報告。イングランド南東部で実施された観察研究の質的要素に焦点を当てる。特に、転倒検知器やベッド占有センサーなどの遠隔モニタリング装置の使用に関する高齢者の経験と期待について探る。また、転倒を経験した高齢者のリハビリテーションに対するこの要素の意味についても考察する。	35	イングランド
9	Perceptions and Use of Gerotechnology: Implications for Aging in Place	2008	Atiya Mahmood, Toshiko Yamamoto, Megan Lee, Carmen Steggell		×	×	×		定性的	フォーカスグループ	オレゴン州の都市部と農村部の両方で、自宅や福祉施設に住む高齢者を対象に、一連の小規模なパイロット研究を行っている。最初のフォーカス・グループ・セッションの予備的なデータ分析から、モデル生成に有用なコンセプトが明らかになり浮かび上がったテーマを紹介する。	9	米国

【別添】表9：Factors influencing acceptance of technology for aging in place: A systematic reviewから抽出された質的研究の一覧（全16件）

	タイトル	年代	著者	ADL	安全性	相互作用	実装プレ	実装ボス	調査方法	対象	調査テーマ	n	国名
10	The Acceptability of Home Monitoring Technology Among Community-Dwelling Older Adults and Baby Boomers	2008	Alex Mihailidis PhD and PEng, Amy Cockburn MScOT, Catherine Longley MScOT & Jennifer Boger MAsc	×	×	×	×		ミックス メソッド	デプスインタビュー 面談調査	2つの世代のコホート（現在のベビーブーマーと高齢者）がホームモニタリング技術を受け入れる意思があるかどうかを調査した。男女ともに地域に住む30人（ベビーブーマー15人、高齢者15人）が、構造化された混合法によるインタビューに参加した。参加者は、様々な技術（例：個人用緊急通報システム、転倒検知システム）およびセンサーの種類（例：スイッチ、モーションセンサー、コンピュータービジョン）に対する意見と見解を、こうした技術を設置し使用したいと思う家庭内の場所を含めて決定した。	15	カナダ
11	Unobtrusive In-Home Monitoring of Cognitive and Physical Health: Reactions and Perceptions of Older Adults	2008	Katherine Wild, Linda Boise, Jay Lundell, Anna Foucek, View all authors and affiliations		×		×		定性的	フォーカスグループ	地域在住の高齢者とその家族のモニタリングのニーズと期待を明らかにすることである。フォーカスグループには、家庭内モニタリング機器とデータ出力の例が提示され、参加者は、そのデータが自分にとって意味のある情報を示しているかどうか、また、そのようなデータを誰にどのように配布してほしいかを検討するよう求められた。その結果、「自立の維持」「認知機能低下の発見」「情報の共有」「プライバシーとモニタリングの有用性のトレードオフ」という4つのテーマが浮かび上がった。	23	米国
12	Electronic Memory Aids for Community-Dwelling Elderly Persons: Attitudes, Preferences, and Potential Utilization	2005	Jiska Cohen-Mansfield, Michael A. Creedon, , Thomas B. Malone, Mark J. Kirkpatrick, III, Lisa A. Dutra, and Randy Perse Herman, View all authors and affiliations				×		ミックス メソッド	面談調査	100人の高齢者ボランティアからのアンケートデータによると、半数以上が少なくとも一つの目的のために電子記憶装置に興味をもっていることがわかった。使用すると答えた人は、使用しないと答えた人に比べて、教育レベルが高く、家庭用電子機器をより多く使用し、機器の使用を手助けしてくれる人がいる可能性が高く、健康上の問題を抱えている人が多かった。ほとんどの人が、薬の監視と予定の記憶のために記憶補助装置を使い、次に住所と電話番号を記憶することを希望しています。期待される用途、デザイン、望ましい指導方法、機器に関する懸念は様々であった。研究結果は、柔軟性と複雑さの程度が異なる機器を開発する必要性を示唆している。今後の研究では、このような技術を使用するためのトレーニング方法について評価する必要がある。	100	米国
13	Wearing and Using Personal Emergency	2005	Eileen J Porter, PhD, RN		×			×	定性的	ディプスインタビュー	個人用緊急通報システム（PERS）は、そのような人のための在宅ケアの技術的補助手段であるが、PERSを使用した体験についてはほとんど知られていない。一人暮らしの虚弱女性7名（83歳～96歳）の体験を記述的現象学的手法で調査した。主要現象はPERSボタンに関する一時的なものであり、2つの構成現象は装着時期の決定と使用するかどうかの決定であった。得られた知見は、コンプライアンスに焦点を当てたPERSの装着と使用に関する既存の文献と対比された。この小さなサンプルの女性の経験のバリエーションは、虚弱高齢者のPERSの一貫した使用を強化するためのさらなる研究と個別介入を保証するものである。	7	米国
14	Peer support via video-telephony among frail elderly people living at home	2003	Hiroichi Ezumi, Noriko Ochiai, Mikiko Oda, Shigeko Saito, Minae Ago, Noriko Fukuma, Setsuko Takenami,			×		×	ミックス メソッド	面談調査	在宅で生活する虚弱高齢者を対象に、テレビ電話によるネットワークがピアサポートに与える効果を検討した。14名（男性5名、女性9名、年齢層78-85歳）を対象に、コーディネータ介入とISDNテレビ電話の利用によるネットワーク形成の1年間の試行を実施した。介入の目的は、在宅虚弱高齢者の機能的自立を支援・向上させ、社会的ネットワークを広げることであった。研究期間中、被験者は1400回のビデオ通話をし、合計25,867分に及んだ。通話をしなかった被験者は1名であった。中心市街地以外に住む人ほど、テレビ電話の利用が多かった。男女間の通話頻度は低かった。男性の方が通話時間が短く、通話回数も少なかった。テレビ電話の利用頻度は、毎日利用するグループ、週に1回利用するグループ、月に1回利用するグループの3つに分類された。第一グループの被験者は全員、ビデオ電話に満足していることを明確に表明している。テレビ電話のネットワークは、高齢者のピアサポート関係に役立つと思われる。	28	日本
15	Considering the Use of a Personal Emergency Response System: An Experience of Frail, Older Women	2002	Porter, Eileen J., PhD, RN Ganong, Lawrence H., PhD		×		×		定性的	ディプスインタビュー	高齢で虚弱な女性が個人用緊急通報システム（PERS）を使用する際の個々の配慮について論じているが、それは高齢未亡人の在宅ケア経験を探る大規模縦断研究から導かれたものである。参加者は、「倒れても見つかからない」リスクを感じ、PERSを持っていない11人の虚弱女性（81-94歳）である。各女性の自宅でのインタビュー時に得られたPERS関連データを、記述的現象学的手法で分析した。PERSの使用検討については、「なくても大丈夫」、「本当に必要になるまで待つ」、「後で手に入れるかもしれないと納得する」、「今以上の苦勞はしない」によって経験が多様に構成されていた。PERSの利用率を高めるためには、おそらく在宅ケア専門家による一貫した介入が必要であろう。効果的な介入を行うためには、高齢の虚弱女性によるPERS利用の阻害要因や障壁を探る、さらなる記述的研究が必要であると思われる。	11	米国
16	Receptivity to new technology among older adults	1999	Neena L. Chappell, Zachary Zimmer,		×		×		定量調査	面談調査	本研究では、高齢者の特定の技術的製品に対する受容性を理解するためのモデルを開発・検証するために、健康利用に関する文献を参照した。結果受容性は、素因、ニーズ、社会的支援因子、および、技術利用によって軽減される問題への関心度によって直接的に影響される。階層的回帰式から、後者の「関心」が受容性に最も強く影響し、「必要性」は間接的に強く影響することが明らかになった。また、他者との接触が不満足な人ほど受容性が高いことから、社会的支援の欠如が欲求要因として作用していることが示唆された。また、過去の研究とは異なり、男性よりも女性の方が技術に対して受容的であることがわかった。結論高齢者の自宅での生活の質を高めることを目的とした新しいテクノロジーは、多くの人に歓迎されることが示唆された。	1406	米国